



森永製菓株式会社 CSR報告書 2014



おいしく、たのしく、すこやかに

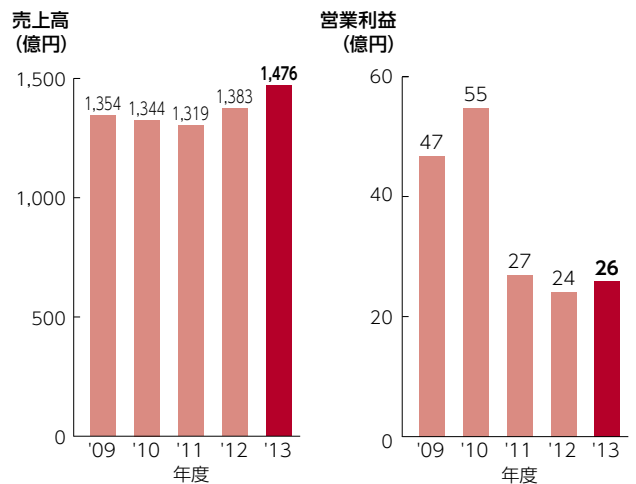


森永製菓の初めての CSR報告書をお届けします。

森永製菓株式会社の概要

■ 会社概要 (2014年3月31日現在)

社名	森永製菓株式会社 (MORINAGA & CO., LTD.)
代表者	代表取締役社長 新井 徹
本社所在地	〒108-8403 東京都港区芝5-33-1
創業	1899(明治32)年8月15日 森永西洋菓子製造所 創業
会社設立	1910(明治43)年2月23日
資本金	186億1千万円
事業内容	当社は菓子(キャラメル・ビスケット・チョコレート等)、食品(ココア・ケーキミックス等)、冷菓(アイスクリーム等)、健康(ゼリー飲料等)の製造、仕入れ及び販売を主要な事業としております。
上場証券取引所	東京証券取引所
従業員数	1,377名(平均年齢40.0歳)



■ 事業紹介

菓子事業



当社の事業活動の中核となっているのは、チョコレートやビスケット、キャンディなどの菓子事業です。家族や友人とのコミュニケーションや家庭・職場などでの気分転換やリラックスシーンを盛り上げる、おいしさ、たのしさの提供を続けています。

食品事業



食品事業は、ココア、ホットケーキミックス、甘酒などを中心とした商品開発をはじめ、新しいレシピの開発や食べ方の提案を常に発信しています。食卓を豊かにし、くつろぎの時間を演出するとともに、手づくりを通じて家族のコミュニケーションの輪を広げる取り組みに力を入れています。

冷菓事業



業界トップクラス商品である「チョコモナカジャンボ」、独自の技術をベースとした「アイスボックス」、当社らしさを追求した主力商品の数々、また菓子メーカーならではの強みを生かした新商品など、それぞれの商品をおとしてお客様へ価値と感動(驚き)を提供しています。

ウイダー事業

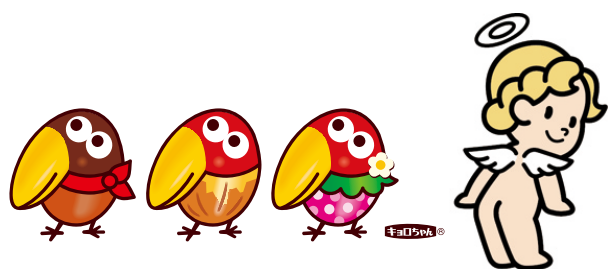


ウイダー事業は、過酷な状況を乗り越えるアスリートの身体能力・精神力を支えてきたノウハウを、不規則な生活、ストレスなどにさらされがちな日常生活をおくる全ての人々に向けてアレンジし展開しています。正しい理論、革新的な商品で、全ての人のすこやかな毎日を力強くサポートします。

ヘルスケア事業



ヘルスケア事業では、高齢化社会やストレス社会を背景に、美容、生活、医療分野で独自性のある健康関連商品の開発を行い、当社の健康食品ブランドとして、「天使の健康」シリーズを通信販売チャネルで展開しています。



編集方針

森永製菓グループは、以前より環境活動の取り組みについて「環境報告書」を発行してきましたが、2014年度からは「CSR報告書」として、従来の環境報告書より開示情報を充実させ発行することとしました。2014年度は「環境報告書」も発行しています。また、より多くのステークホルダーのみなさまに、当社グループのCSRの方針をご理解いただけるよう、報告ページでは各ステークホルダーに対する考え方を掲載しています。

これらの報告によって、ステークホルダーのみなさまからのご意見、ご指導をいただき、その声をもとにさらにCSR活動を推進していきたいと考えています。

報告対象範囲

本報告書は主として森永製菓株式会社を対象としています。ただし環境データに関しては、当社の5工場と、生産関係会社5社のグループ合計実績となります。

森永製菓5工場：鶴見工場、塚口工場、小山工場、中京工場、三島工場
生産関係会社：森永スナック食品(株)、森永エンゼルデザート(株)、森永デザート(株)、高崎森永(株)、(株)森永甲府フーズ

※塚口工場は2013年10月で閉鎖しました。4月～6月の生産実績が環境データに含まれます。

報告対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日

※一部2013年度以前の取り組みや直近の活動報告も含んでいます。

発行日

2014年12月

参照ガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」
- ISO26000(社会的責任に関する手引き)

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを深めるさまざまなツール



↑コーポレートサイト
URL <http://www.morinaga.co.jp/>



↑ファンサイト:エンゼルPLUS
URL <http://ap.morinaga.co.jp/>

お問い合わせ先

森永製菓株式会社 コーポレートコミュニケーション部
TEL:(03)3456-0143

目次

- 01 森永製菓株式会社の概要
- 02 編集方針
- 03 TOP MESSAGE
- 04 森永製菓のCSR
- 05 森永製菓の歩み

マネジメント

- 07 コーポレート・ガバナンス
- 08 コンプライアンス・リスクマネジメント

社会への取り組み

- 09 お客様の笑顔のために
- 11 お取引先様の笑顔のために
- 12 株主・投資家のみなさまの笑顔のために
- 13 従業員の笑顔のために
- 15 子どもたちの笑顔のために



環境への取り組み

- 20 環境マネジメント
- 23 低炭素社会の実現
- 24 循環型社会の形成
- 26 環境汚染物質の管理・削減促進
- 26 環境保全活動



“おいしく、たのしく、すこやかに”

私たちは、『食』を通して、価値と感動をお届けする企業を目指します。
そして、「世界の子どもたちに貢献できる企業になる」ことが、
森永製菓の創業以来の夢です。

森永製菓は、1899(明治)32年、創業者森永太郎が森永西洋菓子製造所として創業し、日本の人々に栄養価のあるおいしい菓子を届けたいという夢を抱き、115年の歴史を積み重ねてまいりました。

以来、私たちは、お菓子から生まれる人とのふれあいなど、わくわくドキドキするたのしさや驚き、人の心を動かすエッセンスを製品と共にお届けしたいと考えて、企業活動を行っております。当社のシンボルであるエンゼルには、このような精神が込められています。

現在、当社は、菓子・食品・冷菓・ウイダーの4つの事業を柱にし、さらに少子高齢化や健康志向に対応した健康分野や、グローバルな拡大を目指す海外分野の強化に注力してまいりました。



当社のクオリティの高い菓子はグローバル市場での競争力も高く、世界の人々に広く愛されるポテンシャルがあります。着実に成功実績を積み重ね、さらにその先の成長へとつなげていきたいと思っております。

そして、その事業継続のために、私たち食品メーカーの基本は何よりも安全・安心な食品を提供することであると考え、「森永HACCP」「品質アセスメントシステム」の強化など品質保証体制の充実に取り組んでいます。同時に、地球環境への配慮としては、省エネルギーや省資源など企業活動のあらゆる面で環境負荷の低減の取り組みを進めています。

また、エンゼルの精神は、古くは1923年関東大震災の被災者支援に代表されるように、事業活動だけでなく社会的な活動にも反映されています。現在は「エンゼル・スマイル・プロジェクト」として、自然体験、食育体験、スポーツ体験などの直接体験の場の提供や、教育環境の整備を支援することで、未来を担う日本とカカオの国の子どもたちの心身の健全な育成を応援しています。

企業に対する社会の要請が強まる中、当社はグローバル社会の一員として、ステークホルダーの皆様へ2013年度CSR活動の取り組みをご報告するとともに、ご意見をいただきながら活動をより活性化させていくために、CSR報告書を作成いたしました。

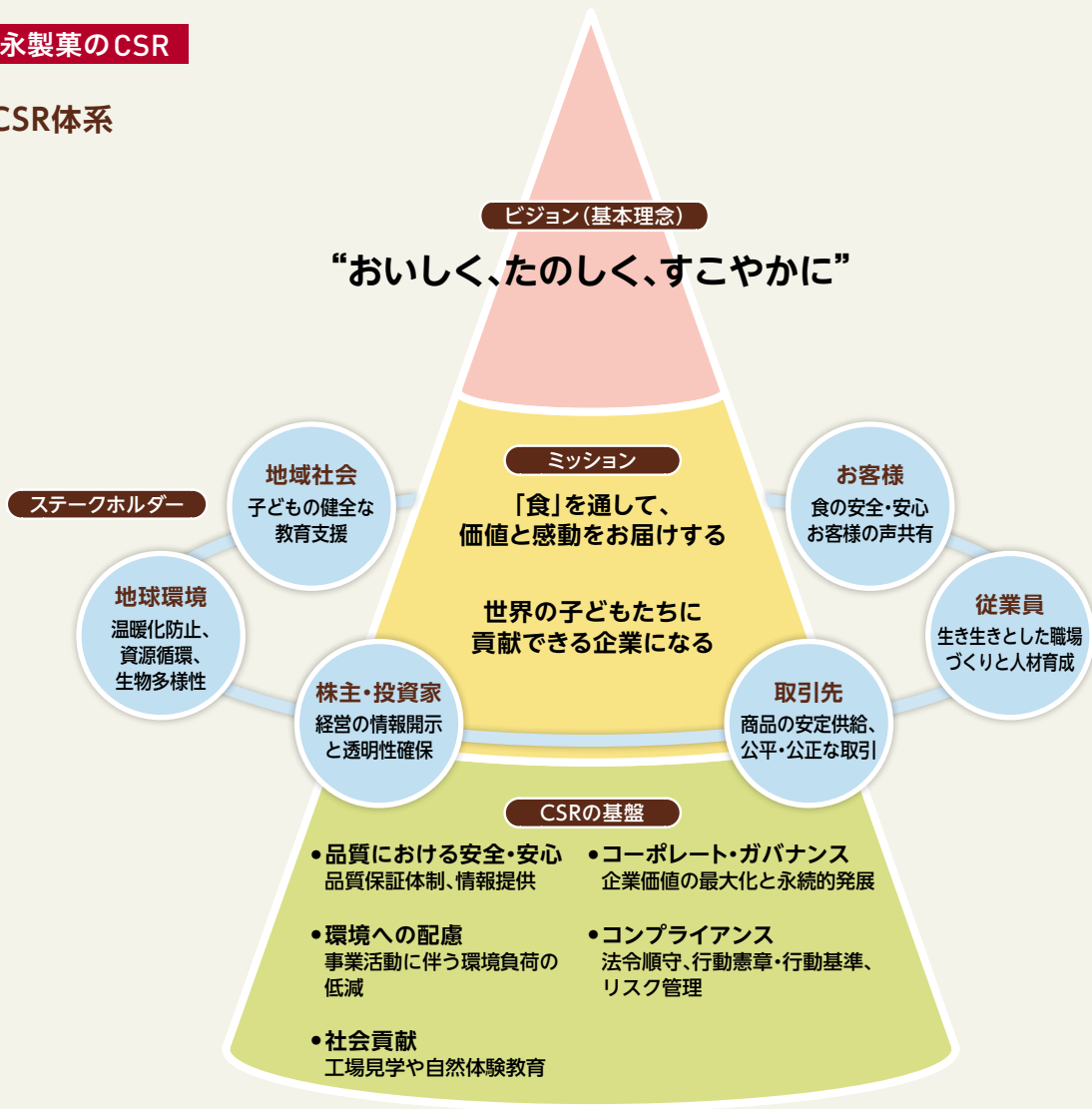
これからも企業としての成長と、子どもたちや社会の成長をサポートする社会貢献の取り組みを企業活動の両輪として取り組むことで、当社のビジョンである「おいしく、たのしく、すこやかに」、そして「世界の子どもたちに貢献できる企業になる」という創業以来の夢の実現を目指していきたくと考えています。

今後ともご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **新井 徹**



CSR体系



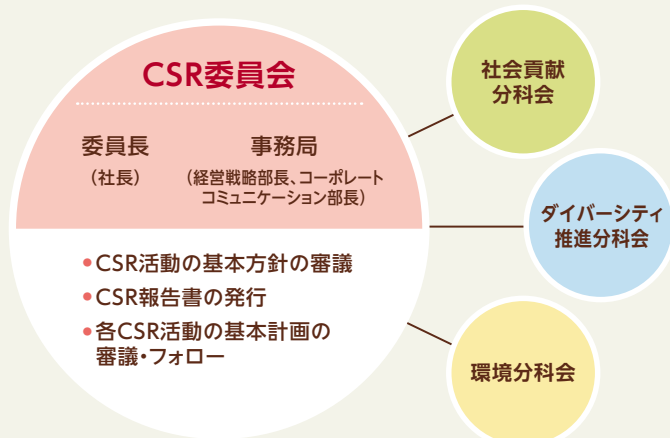
CSR基本方針

(1) 当社は企業理念・行動憲章に則り、企業活動の全ての領域にわたり、社会的責任を果たすべく、当社を支えていただいているステークホルダー(お客様・地域社会・パートナー・社員・株主等)との良好な関係を維持・発展させ、社会との共存と持続的成長を実現することに努力します。

(2) 全てのCSR活動の基盤はコーポレート・ガバナンス(=企業理念の確立・維持、経営の効率性・健全性・透明性の確保)、コンプライアンス(=法令・行動憲章・行動基準の順守・リスクマネジメント・情報開示)、品質における安全・安心の確保、あらゆる面での環境への配慮、未来を担う子どもたちのすこやかな成長を願う社会貢献活動にあります。

CSR推進体制

2014年10月、コーポレートコミュニケーション部にCSRグループを設置し、他の関連部署と連携をしながらCSR活動を推進しています。また社長を委員長としてCSR委員会を開催し、社会貢献・環境・ダイバーシティなどCSRの活動状況や方向性の確認を行い、会社全体でCSR経営を進めています。



森永製菓グループの歩み

森永製菓の歴史を製品や社会活動をとおして紹介します。

1899



森永 太一郎



松崎 半三郎

日本の西洋菓子のパイオニア

「日本に西洋菓子を普及させる」という大きな夢を胸に、創業者森永太一郎がアメリカから帰国したのは1899(明治32)年。わずか2坪の工場で西洋菓子をつくり始め、やがて松崎半三郎というパートナーを得て事業は飛躍的に拡大し、夢は現実のものとなりました。

1900年当時



森永太一郎がアメリカから帰国し、「森永西洋菓子製造所」創業

History

1899 明治32年

1905 明治38年

1912 大正元年

1914 大正3年

1918 大正7年

1919 大正8年

1920 大正9年

1923 大正12年

1930 昭和5年

1937 昭和12年

1944 昭和19年

1954 昭和29年

1957 昭和32年

1959 昭和34年

1960 昭和35年

1961 昭和36年

1964 昭和39年

1967 昭和42年

1969 昭和44年

1905



1905年に登場した初代エンゼルマーク



1951年から使われた6代目マーク



1986年から使われているマーク(7代目)

「エンゼルマーク」の誕生!

エンゼルマークは、太一郎が当時よくつくっていたマシュマロが「エンゼルフード」と呼ばれることにヒントを得て考えられました。エンゼルマークは誕生以来6回変わってきましたが、森永製菓のシンボルとして現在も使われています。

1919

8時間労働制の導入

創業して間もない1904(明治37)年に従業員の制服制帽を採用した森永製菓は、1919(大正8)年、業界に先駆けて8時間労働制を導入。また早くから健康保険組合や厚生年金基金の設立を行うなど、職場環境整備の面でも先駆者として歩んできています。



待遇改善を求めて日本各地で労働争議が起こる中、森永製菓はいち早く労働条件を改善し、労働者の生活改善と健康確保に貢献しました。

1937

第1回「森永母の日大会」を開催

1936(昭和11)年、「森永母を讃える会」をつくり、諸団体と協力しながら翌1937年に「母の日」の普及活動を全国規模で展開。「ありがとうお母さん」を日本に定着させました。



「おいしく、たのしく、すこやかに」のシンボル、エンゼルマークを商標登録

「森永製菓株式会社」となる



ポケット用紙サック入りミルクキャラメル発売、爆発的な人気を呼ぶ



日本初のカカオ豆からのチョコレート一貫製造による、国産ミルクチョコレートを発売



日本初の飲用ココア、ミルクココア発売

8時間労働制の導入



ドライミルク製造開始、翌年発売

マリービスケット発売



赤ちゃん専用の離乳ビスケット、森永マンナ発売

第1回「森永母の日大会」を開催

ペニシリン国産第一号完成



日本初のバンドオープン導入

ホットケーキの素発売

ウォルトディズニープロダクションと日本初のライセンス契約締結

バレンタインデー企画を展開日本初の国産インスタントコーヒー発売
教育設備助成会設立と同時にベルマーク運動に参加

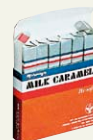


エンゼルパイ発売

ハイクラウンチョコレート発売、大ヒットとなる



キョロちゃんデザインのチョコボール発売
「まんがのキャンズメ」登場
チョコフレック発売



ハインソフトを発売
「おもちゃのキャンズメ」登場

1970 昭和45年

大阪万博に参加、
空中ビュッフェを運営

1971 昭和46年

小枝チョコレート発売



1972 昭和47年

チョコモナカ発売



1975 昭和50年

ハイチュウ発売

1977 昭和52年

チュッパチャブスキャンディ輸入販売



1982 昭和57年

おととと発売



1983 昭和58年

米国ウイダー社と事業提携

1986 昭和61年

CIによる新エンゼルマーク発表

1989 平成元年

アイスボックス発売



1991 平成3年

エンゼル財団設立

1993 平成5年

ソリッドダース発売



1994 平成6年

ウイダーinゼリー発売



1999 平成11年

森永創業100周年を迎える
第1回 リトルエンゼル無人島探検隊実施

2000 平成12年

全4工場でISO14001認証取得完了

2003 平成15年

摩利哪呷(上海)食品有限公司を設立
カレ・ド・ショコラ発売
ベイク発売



2004 平成16年

上海でハイチュウ製造開始



2007 平成19年

バリーカレポー社と業務提携

2008 平成20年

米国森永製菓設立
1チョコ for 1スマイル活動開始
(株)アントステラ全株取得



2009 平成21年

ウイダー事業本部設立
ヘルスケア事業部設立

2010 平成22年

生ラムネ発売
森永食品(浙江)有限公司
を設立



2011 平成23年

高崎森永(株)設立

2012 平成24年

森永食品(浙江)有限公司 生産開始

2013 平成25年

森永チョコレート
(1チョコ for 1スマイル)発売
PT. Morinaga Kino Indonesiaを設立
森永アメリカフーズ(株)を設立

多彩な 宣伝活動の展開

1904年に最初の新聞広告を行
い、飛行機を利用した全国巡回や大
型ネオン塔の設置、「チョコレートのバ
レンタインデー」の企画・普及やインパ
クトのあるテレビコマーシャルなど、
社会の話題となるような創意工
夫をした宣伝活動を実施
しています。



1967

おもちゃの罐ヅメ

キョロちゃんデザインのチョコボールが発売された
1967年に「おもちゃの罐ヅメ」の前身の「まんが
の罐ヅメ」が登場しました。「おもちゃの罐
ヅメ」となったのが1969年。その後、
色々な「おもちゃの罐ヅメ」が
登場しました。



1994

ウイダーinゼリー

スポーツの前後や途中に新しい感
覚で摂取できる栄養食品をテーマに、
1994年にスパウト付きゼリー飲料「ウイ
ダーinゼリー」を開発。いつでもどこ
でも片手で飲める手軽さで、不規則にな
りがちな現代人の食生活をサポー
トできる新しい飲料スタイル
を定着させました。



2000

地球環境の保全に企
業が果たす役割が強く求め
られるようになり、森永製菓は
ISO14001 認証を取得し、環
境マネジメントの認知や普及
に貢献しました。



森永製菓全4工場 ISO14001 認証取得

1998(平成10)年、小山工場が日本の菓子業界で
初めて、国際基準を満たす環境マネジメントを実
践している工場としてISO14001の認証を取
得。業界のさきがけとなりました。さらに
2000(平成12)年には全4工場が
認証を取得しました。

ハイチュウの 海外事業展開

世界に通じる味わいと技術的強
みを持つ「ハイチュウ」を世界戦略
商品と位置付け、世界各地のお客
様にお届けしていきたいと考えて
います。このため海外生産・販
売拠点の整備も進めてい
ます。



「森永ミュージアム」

URL <http://www.morinaga.co.jp/museum/>

コーポレート・ガバナンス

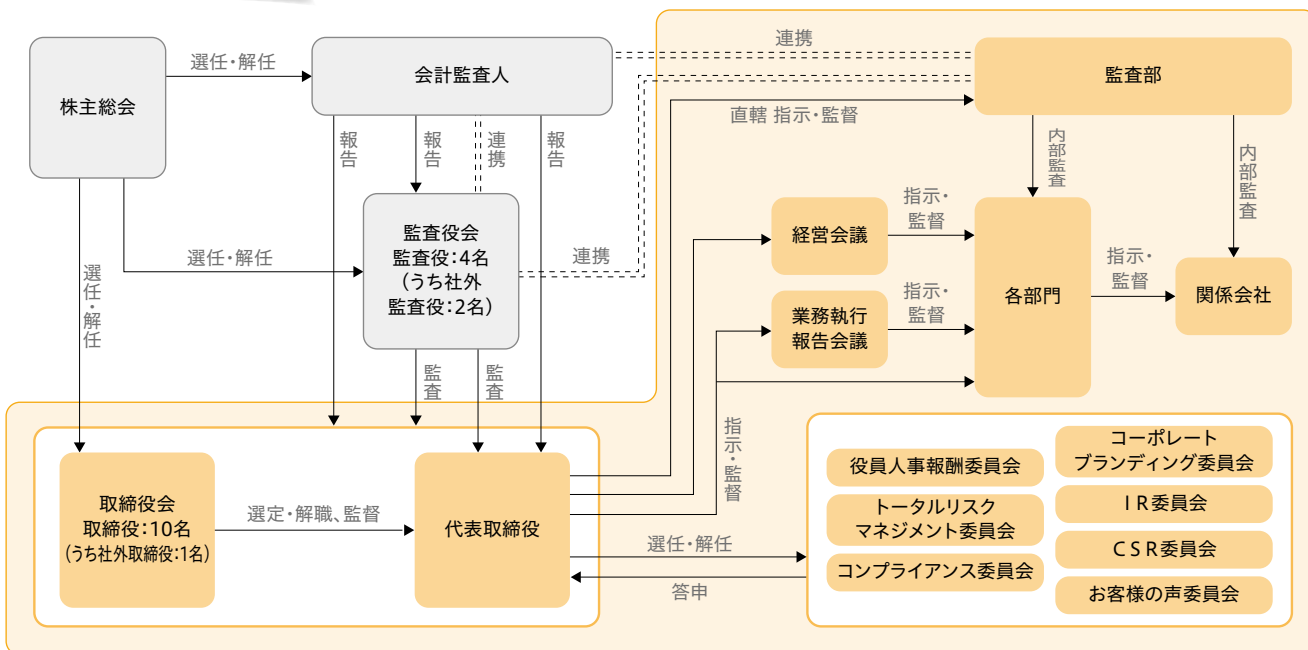
コーポレート・ガバナンスについて

森永製菓は、企業価値の最大化ならびに企業の永続的発展を図ることを目的に、経営の健全性及び効率性の向上、財務内容の信頼性の確保、適時適切な情報開示、法令の順守ならびに各ステークホルダーとの信頼関係の強化をコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

取締役会・役員体制

当社の取締役会は2014年6月より社外取締役1名を増員し、計10名(男性9名、女性1名)で構成されています。取締役会は、その審議の実効性と効率性を確保するため、諮問機関である各種委員会において、事前に十分な協議を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制

当社グループは、企業価値の最大化ならびに企業の永続的発展を図ることを目的に、内部統制システムの強化及び経営の効率化を図り、業務を適正に執行するとともに、監督及び監査の実効性の確保に努めています。

職務の執行が適正に行われるために、取締役会は実効性

なお、当社は事業環境の変化への機動性を高め、意思決定のスピードアップを図るべく、執行役員制度を導入しています。これにより、戦略執行に係る通常業務の執行権限と責任を執行役員に付与し、経営の効率化と業務執行責任の明確化を図っています。

また、業務執行の確実性を期すため、代表取締役社長、業務執行取締役をはじめ経営幹部による業務執行報告会議を設置しています。

監査体制

監査役は社外監査役2名を含む計4名で構成されています。社外監査役のうち1名は常勤監査役です。常勤監査役は、定期的に代表取締役と面談するとともに重要会議に出席し、取締役の職務執行の監査を行っています。

のある内部統制システムの構築と法令及び定款等の順守体制の確立に努めるとともに、監査役が当該システムの有効性と機能を監査する体制としています。

また、国内子会社を含めた「ヘルプライン」を社内外に設置し、コンプライアンス上問題となる情報を広く収集し、適切な対応を行っています。

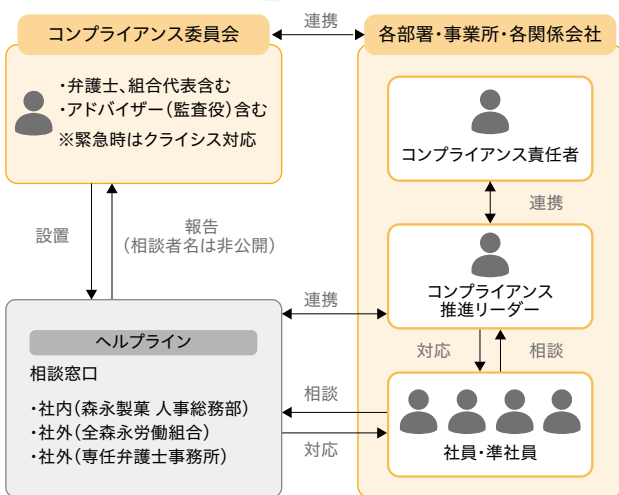
コンプライアンス・リスクマネジメント

コンプライアンス推進について

森永製菓グループは、「コンプライアンスはあらゆる事業活動において、全てに優先する課題である」との意識のもと、2001年に「森永製菓行動憲章・行動規準」を制定いたしました。2008年には「森永製菓グループ行動憲章・行動規準」に改定し、グループ共通のコンプライアンス経営体制をとっています。

また、代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス経営の構築や推進を行っています。コンプライアンス違反などの通報及びコンプライアンスについての相談窓口として、「ヘルプライン」を設置しています。社内、労働組合、外部弁護士の3カ所で相談窓口を設けており、制度の浸透に努めています。

コンプライアンス経営体制図



コンプライアンス意識の向上に向けて

コンプライアンス風土の浸透・定着を図るため、「森永製菓グループ行動憲章・行動規準」を各事業所でパネルで掲示するとともに冊子やカードを全従業員に配布しています。

コンプライアンス意識の向上のため、新入社員研修、新任管理職研修などの階層別研修において、コンプライアンス研修を実施するとともに、本社、各事業所での研修を継続して



実施しています。

また、毎年、全従業員を対象にコンプライアンスアンケートを実施し、当社グループのコンプライアンス状況の把握や今後の対策に生かしています。

リスク管理方針・体制

当社グループは、当社グループの活動に潜在するリスクに対応するため、内部統制システムの一環として2001年に「トータルリスクマネジメント規程」を制定し、想定されるリスクを分類及び評価し、平常時における予防対策を実施しています。

また、代表取締役社長を委員長とする「トータルリスクマネジメント委員会」を設置し、トータルリスクマネジメント計画の策定及び実施を行っています。

クライシスが発生した場合は、状況を速やかに評価・判断し、「対策本部」の設置、情報開示等、必要な対応措置をとるとともに、原因究明、再発防止対策を行うこととしています。

反社会的勢力に対しては、平素から関係行政機関などからの情報収集に努め、事案が発生した場合には警察等関係機関と緊密に連絡をとり、組織全体として速やかに対応することとしています。

BCP (事業継続計画) の策定

当社グループでは、「トータルリスクマネジメント規程」の中で、「自然災害クライシス対応要領」をはじめとする各種要領を策定し、定期的な見直しを行っています。

ここには、災害発生時には「災害対策本部」、「SCM対策会議」を設置し、各メンバーによる事業の早期再開を図るための対応や、本社機能が停止した場合の代替本社の設置基準を定めています。2014年1月には代替本社設置訓練を実施し、マニュアルの整備を行いました。

日常的には本社・事業所において従業員の安否確認システムの定期訓練、避難方法の周知徹底、衛星電話等の連絡手段の確保と定期訓練や防災備蓄品の整備などを行っています。また、現在、DRサイト(Disaster Recovery site)構築によるITシステムのバックアップ体制強化に取り組んでいます。

お客様の笑顔のために

お客様への
考え方

私たちは「食」を通して、価値と感動のある商品・サービス・情報をお届けする企業を目指します。その基本となる安全・安心を確保する品質保証体制を充実し、お客様との対話を推進して商品・サービスの向上に取り組んでいます。

品質への取り組み

品質方針

私たちは、社会に貢献する商品・サービス・情報の企画から販売に至る全過程にわたり、優れた品質と安全・安心の確保を最優先の課題として行動します。

- ・食品メーカーの原点は、安全な食品を提供することです。お客様の信頼を大切に、お客様の視点に立って行動します。
- ・私たちは、優れた品質と安全・安心の確保を最優先の課題として取り組みます。

品質保証体制

森永製菓は、品質保証について「私たちの商品は一定の流通・保管条件が守られる限りにおいて、その品質は保証されたものでなければならない」と考えています。このため、企画・開発から調達・生産・販売に至る全過程にわたり、安全性を軸に品質を確保します。

●**企画・開発**：安全性や法律への適合性を点検する仕組み（品質アセスメント^{※1}）を運用し、品質が確保されることを確認しています。

※1 品質アセスメント…デザイン、表示、賞味期限、製造条件、包装形態など約230項目について、安全性や法律への適合性を点検する仕組み

●**原料の安全性確保**：使用原料は厳格な規格を定め、それに対応できる原料メーカーから購入しています。原料は、食品衛生法などの法律に違反していないことはもちろん、食品添加物、アレルギー物質など安全・安心に関わる情報を確認します。また、必要な検査を行い、原料が安全であることの確認も行います。

●**工場での品質管理**：工場では独自の品質管理手法である「森永HACCP^{※2}」に沿って管理を行い、不都合品をつくらない、工場から出さない体制を整えています。また、工場での品質管理が正しく機能しているかどうかを定期的に監

査・点検し、安全性や品質の確保に取り組んでいます。

※2 森永HACCP…食品危害を未然に防ぐ国際標準の総合衛生管理手法（HACCP）をベースに包装状態や製品の形、味といった品質面も含めて管理する当社独自の仕組み

●**保管・輸送・店頭管理**：工場から出荷した商品がお客様のお手元に届くまで、適切な条件で流通するよう基準を定め、適切な管理を実施しています。

安全・安心の取り組み

●**正しく分かりやすい表示**：パッケージに記載する表示は、食品衛生法やJAS法等の法律に従うことはもちろん、お客様が商品を選択する際の重要な情報です。健康に関するアレルギー情報、栄養成分、賞味期限などについても、見やすく分かりやすい表現になるよう工夫しています。

●**食物アレルギーへの対応**：パッケージに見やすく、分かりやすく記載するとともに、ホームページ上にも「アレルギー情報一覧」を掲載し、安心してお客様が商品選択できるよう努めています。これからも当社は、アレルギーをお持ちのお客様のことを考え、特定原材料及びそれに準ずるもの（27品目）について品質管理を徹底し、安全・安心な食品をお届けする努力を続けていきます。



「アレルギー情報一覧」

URL <http://www.morinaga.co.jp/catalog/allergy/search.php>



みんなが笑顔になれるようにがんばっているよ

お客様満足のための取り組み

お客様満足のための基本方針

お客様重視の経営の推進、優れた品質と安全・安心の確保

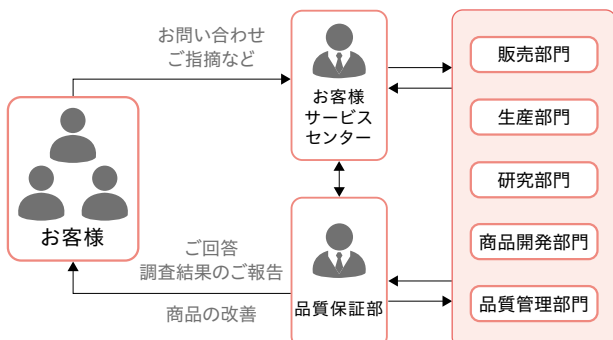
行動指針

1. お客様の声を経営に反映します。
2. お客様のお申し出には、「誠実」「迅速」「事実の的確な報告」をモットーに対応します。
3. お客様には、「公平公正」に対応します。
4. お客様の声を社内で共有し、商品・サービスの開発・改善に努めます。
5. お客様の個人情報の保護・管理を厳守します。
6. お客様に提供する商品に、万一不測の事態が発生した場合は、迅速かつ確かな情報開示を行い、お客様の信頼回復に努めます。

お客様サービスセンター

お客様サービスセンターは、1971年にお客様対応を専門としたコンシューマー部として産声をあげました。現在はお客様相談室、お客様情報室の2つのユニットで構成されています。2013年10月にはISO10002/JISQ10002(苦情対応マネジメントシステム)の自己適合宣言を実施しました。お客様対応における監視基準を作成し、その基準をクリアするためにPDCAを回しながら、今後もCS(顧客満足)に向けた会社全体のレベルアップを図っていきます。

お客様サービスセンターのお客様サポート体制



お客様サービスセンターに寄せられるお客様の声(ご要望やご提案)は、スピーディに対応できるよう、全ての部署で共有しています。また「お客様の声委員会」「お客様の声ミーティング」を設置し、よりご満足いただける商品づくりに反映させています。

お客様とのコミュニケーション

エンゼルPLUSについて

2013年11月に会員制のファンサイト「エンゼルPLUS」を開設し、お客様と会社、お客様同士が常時交流できる場を設けました。



エンゼルPLUSトップ

「エンゼルPLUS」の目的は、

- ①お客様に森永製菓のこともっと多く正しく知っていただくこと、
- ②お客様の声を商品開発やマーケティング等に活用しお客様に還元すること、
- ③森永製菓を好きになっていただき周囲にも推奨してくれるアンバサダーを育成することです。

今後も、日々の交流活動を通して、お客様と長期にわたる良好な関係を構築し、LTV(顧客生涯価値)を高めていくプラットフォームとして利用していきます。

社会への取り組み

TOPICS

アンテナショップ「おかしなおかし屋さん」

東京駅店、お台場店、通天閣店の3店舗で運営されている当社のアンテナショップ。駅や観光地といった『ハレの場』で、お菓子のおいしさだけでなく、ショップ全体を通じてお菓子のたのしさをお客様にお届けし、当社の新たなファンをつくることを目指しています。アンテナショップでしか買えない東京限定スイーツやお菓子の詰め合わせセット、オリジナルグッズ等を販売し、お台場店では当社のお菓子と組み合わせたソフトクリームやパフェを提供するなど、買ったの嬉しい、食べておいしいアンテナショップです。



アンテナショップでしか買えない東京限定スイーツやお菓子の詰め合わせセット、オリジナルグッズ等を販売し、お台場店では当社のお菓子と組み合わせたソフトクリームやパフェを提供するなど、買ったの嬉しい、食べておいしいアンテナショップです。

お取引先様の笑顔のために

お取引先様
への考え方

公正・公平なお取引をとおして、お取引先様と強い信頼関係を構築していきます。

公平・公正な取引

森永製菓では、購買業務に関する手続きを定めた「購買管理規定」に基づき、効率的な購買活動の運営を図っています。また、お取引先様と公平・公正で透明な関係を構築するために「資材購買方針」を2004年に制定し、お取引先様に表明しています。法令、社内規則等を順守し、お取引先様の選定にあたっては、品質、価格、納期、技術力、経営基盤などを公正に評価しています。

資材購買方針

1. 順法・コンプライアンス

森永製菓は、行動憲章、法令、社内規則を順守し、健全な購買活動を行います。

2. パートナーシップ

お取引先様とは、顧客感動・お客様重視を共通目的として協同し、相互に発展できる関係作りを目指します。

3. 公正な機会

お取引先様の選定は、品質、価格、納期、技術力、経営基盤などの経済合理性を公正に評価し、決定します。

(2004年10月1日制定・表明)

安定供給に向けた取り組み

お客様に安全・安心な製品を安定してお届けするためには、原材料の調達についても安定した購買が必要不可欠となります。当社は安全・安心な原材料を安定的に購買するために、長年供給いただいているお取引先様を中心に相互に決められた内容を確認し合い、購買しています。新規お取引先様のご提案についても公平・公正に受け付けており、安定供給につながるものは積極的に検討し、相互にメリットがあるように取り組んでいます。

また、リスク管理の一環として、大震災等の災害時におけるBCP(Business Continuity Plan)などへの積極的な取り組みについても、お取引先様とお互いに協力し合い構築していきます。

お取引先様とのパートナーシップの強化

“おいしく、たのしく、すこやかに”のビジョンを達成するためには、調達から生産、物流にいたるビジネスパートナーとの相互の信頼関係が必要です。

そのためにはお互いの考え方や得意とする技術などを理解し合うことが大切であり、品質管理のあり方や製造現場の視察立会いなど相互に確認し合い、日頃から綿密な意見交換をしています。

お取引先様は当社にとって良きパートナーであり、長きにわたりお互いが成長し続ける関係であるよう、今後とも有用な情報交換の場を設けていきます。

パートナーの
みなさまと協力して
いいものをつくらせて
いくよ!



株主・投資家のみなさまの笑顔のために

株主・投資家のみなさまへの考え方

経営の情報をわかりやすくタイムリーにお届けするとともに、株主・投資家のみなさまへの継続的な安定的配当を確保してまいります。

情報開示に関する基本方針

森永製菓株式会社は、法令の順守はもとより、高い倫理観をもって企業活動を行うとともに、経営の情報開示と透明性確保に努め、株主・投資家のみなさまに対しタイムリーな情報提供に努めます。会社法・金融商品取引法等関係諸法令、証券取引所の定める業績の概況及び「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」に従って、情報ならびにその他の重要な情報を正確かつ迅速に本ホームページ上に公開いたします。

株主・投資家のみなさまとのコミュニケーション

当社は、株主総会や決算説明会、ホームページ、株主通信等を通じて株主や投資家のみなさまとのコミュニケーションの充実を図っております。



株主通信

株主総会・決算説明会

株主総会では株主のみなさまに事業に対するご理解をよりいっそう深めていただくことを常に心がけています。

また、証券アナリスト・機関投資家のみなさまを対象に、5月と11月の年2回、決算説明会を開催しています。説明会では経営トップから決算状況や今後の戦略、業績の見通しな

どをご説明するとともに、さまざまなご質問にお答えしています。決算説明会にて使用した資料はホームページでも公開しています。



決算説明会の様子



証券アナリスト・機関投資家との個別ミーティング

より多くの投資家のみなさまに事業内容をご理解いただくため、証券アナリストや機関投資家のみなさまを対象とした個別ミーティングを継続的に実施しています。

IR情報サイト

ホームページにIR情報サイトを設け、IR関連ニュースや財務情報等の情報を投資家のみなさまに見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけて掲載しています。



【IR情報】

URL <http://www.morinaga.co.jp/company/ir.html>

利益の還元

当社は経営基盤の強化・確立を図るとともに、株主のみなさまへ利益を還元することを最重要と考えており、安定的配当を確保し、さらに業績に応じた配当を早期に実現することを基本としています。

従業員の笑顔のために

従業員への
考え方

従業員の多様な個性を尊重し、やりがいと意欲をもって新たな価値創造に挑戦できる
仕組み・制度づくりに努めるとともに、それぞれのもつ能力を十分に発揮できるよう、働きやすい
環境づくりに取り組んでいます。

人材育成

森永製菓では、人材育成は当社が目指すビジョン・ミッションを実現させていくための手段であると位置づけています。

全社的課題となっている「激しい環境変化への対応」を実行していくために、「自律した強い個人」の創出に向けた人材育成体制を確立し、組織貢献できる人材へと成長を促します。

人材育成を推進するにあたっては、人事戦略と連動した研修企画とし、育成効果を高めていきます。会社と個人がWin-Winの関係であるように、個のレベルアップを実現するためのOJT強化(=職場でのPDCAを円滑に回す)に主眼を置き、風土改革にもつなげていきます。

研修の考え方と体系図

基本的な考え方

研修は『プログラム』として完結しますが、その後の『自己啓発』が重要なポイントであると考え、そこにつながる研修を企画・実行します

自分自身の能力開発を意識し、目的を持った自己啓発に取り組む仕掛けづくり

社員の自律支援とともに、OJT機能の強化につなげます

自己啓発の進め方

研修

・学び、気づき

上長とのコミュニケーション

・求められる人材像
・自分の強み、課題
・キャリア面談

能力開発手段

・目標設定(管理)
・豊富なメニューから自己啓発につながる項目を選択
・個人活動

研修メニュー

マネジメント層研修

階層別研修

テーマ別研修

グローバル研修

自己啓発の実践・促進

各対象層における自己啓発を充実させるため、メニューを常に見直し最適なプログラムを提供しています。個人の受講環境に対応できる通信教育・eラーニングを強化していきます

ダイバーシティの推進

女性活躍推進への取り組み

当社では、2001年に「女性が能力を発揮し、活躍できる組織をつくる」という経営目標を掲げ、女性活躍推進をスタートしました。以降、育児関連諸制度の拡充を中心とした「両立支援」によって、女性社員が長く働き続けられる環境が整えられ、現在では男女間での平均年齢・勤続年数の差はなくなりました。

2009年からは、それまでの「両立支援」に加え、『より責任ある立場において、経営の意思決定に携わることのできる女性社員の育成』を目指した「活躍支援」に重点を置いて取り組んできました。2012年には人事総務部内に「ダイバーシティ推進担当」を設置し、各種研修によるキャリア観の醸成や上司(管理職)の意識啓発をはじめ、従来、女性社員が配属されることが少なかった職域への意識的な人材配置を積極的に実施することで、性別にかかわらず、意欲・能力のある従業員を積極的に登用する環境を整えていきます。

障がい者雇用の促進

当社では、一人ひとりの個を尊重し、それぞれの資質とスキルに合わせて活躍できる場を提供する、という方針のもと、事務・営業部門から製造部門に至るまでさまざまな職場で障がいのある方がその能力を発揮しながら活躍しています。今後も障がいのある方の雇用機会創出に積極的に取り組んでいきます。

障がい者雇用数と雇用率

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
障がい者雇用数(人)	62	59	50	46	49
障がい者雇用率(%)	2.2	2.1	1.8	1.9	2.1

※各年度末時点



外国籍社員の雇用促進

森永製菓では、海外事業強化の方針に伴い、企業風土の变革にも取り組んでいます。そのための取り組みのひとつとして、2013年から外国籍社員の採用を開始しました。グローバルな市場で戦っていくには、従来の日本企業の習慣にとらわれない柔軟な発想や、異文化の受容が不可欠だと考えたからです。国籍にかかわらず多様な人材を受け入れ、生かすことのできる企業風土への変化を推進していきます。

再雇用制度

当社では、定年後再雇用制度を導入しています。2013年4月以降は、部分年金支給開始年齢引き上げに伴い、年金支給開始年齢に達するまで、原則、希望者全員を再雇用しています。また定年後も専門性の発揮が期待できるようシニア等級制度の導入や、評価制度を導入することにより、モチベーションや挑戦意欲の喚起を行っています。

労働安全衛生活動

従業員は「企業活力の源泉であり、最も大切な経営資源」であるとの考えを基本に、労使一体となって安全衛生委員会を中心に職場安全衛生パトロール、安全運転講習や労働時間対策労使会議を実施するなど、安全で働きやすい職場環境づくりに努めています。また、健康保険組合と協力し、健康診断受診の徹底や診断後の保健指導による生活習慣病への取り組みを強化しています。またメンタルヘルス対策として外部相談窓口の設置や社員研修の実施など予防に注力した取り組みを実施しています。災害度数率^{*}は2011年が1.74、2012年が2.85、2013年が1.55でした。

^{*}災害度数率…100万のべ実労働時間あたりの休業1日以上の死傷者が発生する頻度

人事基本データ

		2011年度	2012年度	2013年度
正社員数	男性	1,263人	1,174人	1,089人
	女性	351人	337人	288人
平均年齢	男性	41.2歳	40.6歳	40.3歳
	女性	39.1歳	39.2歳	38.8歳
平均勤続年数	男性	18.0年	17.3年	16.8年
	女性	17.9年	17.8年	16.9年
管理職	女性比率	4.7%	5.1%	4.0%

^{*}各年度末時点

ワークライフバランスへの取り組み

森永製菓では、男女問わず利用できる育児・介護休業制度の整備をはじめ、出産・育児・介護に携わる期間、仕事の負担を軽減できる制度を設けることで、さまざまなライフステージにおいても、成長意欲をもちながら能力を発揮し、活躍できる環境を整えています。また、2007年から計4回「子育てサポート企業」として国からの認定を受けています。



出産・育児支援制度

出産	通院・つわり休暇	妊娠中で就業が困難な場合に、7日まで取得可能
	産前産後休暇	産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間以内)、産後8週間(有給)
	慶弔休暇 妻の出産	2日間(有給)
育児	育児休業	・子が1歳到達後の4月末、または子が1歳6ヶ月に達する日までのいずれか長い期間まで取得可能 ・男性社員が妻の出産後8週間以内に育休を取得した場合、再取得可能とする ・出産後8週間以内であれば、連続5日まで有給
	育児短時間勤務	・育児休業取得可能期間内であれば1日4時間勤務が可能 ・小学校4年生に達するまで1日6時間勤務が可能
	子の看護休暇	未就学の子が1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日予防接種・健康診断・看護のために取得できる

介護支援制度

介護	介護休業・介護短時間勤務	介護休業と介護短時間勤務(1日4時間勤務)を合わせて、要介護状態の対象家族1人につき、1年まで取得可能
	介護休暇	要介護状態の家族が、1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日、1日単位で介護を目的として取得可能

育児休業・介護休業の取得状況(人)

		2011年度	2012年度	2013年度
育児休業	男性	4	3	4
	女性	14	12	21
介護休業	男性	0	0	0
	女性	2	0	0

^{*}各年度末時点

子どもたちの笑顔のために

子どもたちへの考え方

100年を超える森永製菓の歴史は、子どもたちの笑顔に支えられてきた歴史でもあります。だからこそ私たちは、感謝の気持ちを込めて子どもたちをもっと笑顔にする活動を続けていこうと考えています。

さまざまな活動をととして
子どもたちの笑顔を
応援しています



社会貢献活動基本理念

直接体験をととして『子どもたちの心身の健全な育成を目指す』

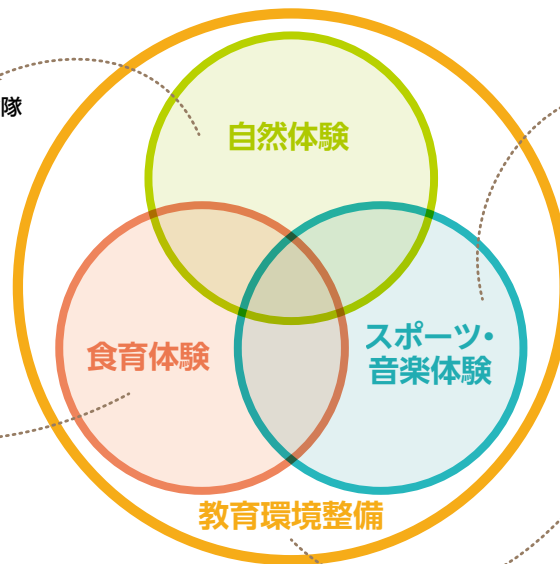
社会貢献活動(エンゼル・スマイル・プロジェクト)

現代社会の子どもたちはインターネットやゲームなどによる間接体験、疑似体験が圧倒的に多くなる一方で、『直接体験』の著しい欠落が指摘されています。それが、“課題や困難”に対して、自ら考え判断し行動するという問題解決プロセスを学ぶ機会を逸し、解決能力の低下につながる一因といわれています。当社では社会貢献活動を「エンゼル・スマイル・プロジェクト」と銘打ち、下記の活動に取り組んでいます。

社会貢献活動の4つのカテゴリー

- 伊賀・エンゼルの森 自然塾
- 森永リトルエンゼル育成 無人島探検隊

- 菓子育
- 工場見学
- キッズニア



- キョロちゃんズ ダンスミュージカル
- フェンシングフルーレ太田雄貴杯

- 1チョコ for 1スマイル活動
- 他社参加型 エンゼル・スマイル・プロジェクト
- 世界カカオ財団 (WCF)
- ベルマーク活動
- 森永エンゼル財団



「社会貢献活動」

URL http://www.morinaga.co.jp/company/cinfo_001

今後の社会貢献活動について

当社のビジョンである“おいしく、たのしく、すこやかに”と、「世界の子どもたちに貢献できる企業になる」という夢の実現に向けて、これからも『子どもたちの心身の健全な育成』のために時代に合った社会貢献活動を実施していきます。

特に“すこやか”につながる環境教育については「自然を大切に、人を大切に」をテーマに取り組んでいきます。

自然体験



伊賀・エンゼルの森 自然塾

田んぼや小川、雑木林等の豊かな自然に恵まれ、さまざまな生物が生息する里山は、日本のふるさとの風景であり、人間が手入れをすることで自然と人が共生してきた場所です。2007年から、生物多様性の保全と持続可能な社会を目指す新しい取り組みとして、当社社有地「エンゼルの森」を舞台に、里山を守り育て、里山文化を次の世代に引き継ぐ「伊賀・エンゼルの森自然塾」を



実施しています。伊賀忍者発祥の地、伊賀上野にある生物多様性の高い貴重な里山で、自然体験をはじめ歴史・生活文化体験など、地元の人々と交流しながら、子どもたちに自然とともに生きる知恵や環境を守ることの大切さを伝えていきます。

2013年度は8月に2泊3日で地元の伊賀市比自岐地区周辺の子どもたち(小学4~6年生男女)25名が参加しました。子どもたちはあらためて自分たちが住んでいる土地の自然の豊かさとのしさに気づき、また間伐体験などをとおして環境や森林に対する理解と関心を深めてくれたことでしょう。



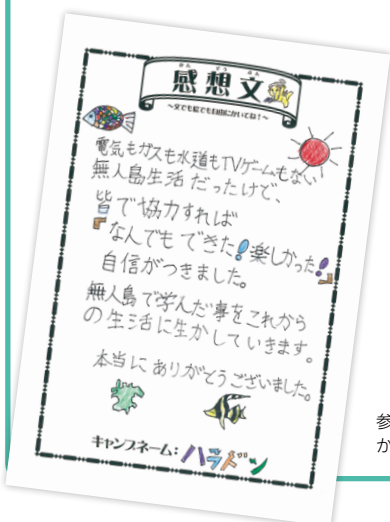
森永リトルエンゼル育成 無人島探検隊

1999年に森永製菓の創業100周年記念事業として始まり、2004年から森永乳業との合同社会貢献事業となった「森永リトルエンゼル育成 無人島探検隊」。全国から小学4~6年生男女総勢30名を募り、夏休みがはじまる7月の後半に奄美大島そばの無人島・江仁屋離島で自然体験活動を実施しています。

水道、電気、食糧など、普段はあって当然と思っているものがない無人島。何もないからこそ、子どもたちは「食べる」「創る」「遊ぶ」という活動の中で、自ら行動し、仲間たちと協力しながら、生活を創り上げます。また、大自然と対峙することによって地球環境と共生するため、仲間と協働する



ための「やさしい心」や「創造力」も身につけていきます。このように無人島で子どもたちが発見し、実践するのは、まさに命を輝かせて生きていくのに大切な力にほかなりません。私たちは、豊かな人間性を育み、「生きるため」に必要な7つの力について、子どもたちの自発的な気づきの機会を提供していきます。



参加した子どもたちからの感想文



2014年度の探検隊員たち



社会への取り組み

食育体験



森永製菓では
「お菓子は心と体の栄養」
との考えに基づき、
食育体験を推進しています



菓子育

お菓子をとおした心のふれあい

「菓子育」は、子どもたちのすこやかな成長を応援する当社独自の取り組みで、栄養価のみならず、心の充足・家族や友だちとのコミュニケーションを果たすお菓子の大切な役割をお伝えしています。また、お菓子を安心して召し上がっていただくための情報も提供しています。



2013年度は、チョコペンやアラザン（製菓の材料）で「エンゼルパイ」にデコレーションをして、大切な人に贈る“世界にひとつだけのデコデコエンゼルパイ”づくりのイベントを実施しました。このイベントは、2013年10月に伊勢崎青年会議所主催で開催された創立50周年記念事業 i-kidsワークスクールで、小学4～6年生約150名の方に体験していただきました。さらに2014年2月に池袋のサンシャインシティで開催された「とびだせ！キッズ！～みんなで体験活動ワールド」(文部科学省主催)では約160名のお子さまにご参加いただき、大好評のイベントとなりました。

にご来場いただいています。

チョコレートなどの包装工程を見学できる鶴見工場は、これまで来場されたみなさまからのご要望やご期待に応えるため、2013年3月25日にリニューアルオープンしました。カカオの木の実物大パネル展示や「ハイチュウ」のインタラクティブ映像（最新のデジタル技術を駆使した、映像によるプレゼンテーション）など、さらに楽しく工場見学をしていただけるようになりました。

キッズニア

お菓子をとおした職業体験



当社では、子どもたちが職業・社会体験できる施設、キッズニア東京・甲子園に、「お菓子工場」パビリオンを出展しています。子どもたち一人ひとりがオリジナルの「ハイチュウ」をつくることができ、その体験をとおしてお菓子づくりのたのしさだけではなく、食品衛生や栄養に関する知識を学ぶ機会も提供しています。



2013年度は、バレンタイン期間限定の特別アクティビティ「チョコレートハウス」を開催しました。「小枝」「ダース」「マリー」を使い、キッズニアのキャラクターのひとつ、犬の「パッチェ」をモチーフにしたお菓子づくりや、「ダース」2,640粒で作成した「パッチェ」のピクセルアートの展示などを行いました。

工場見学

お菓子をとおした社会科見学



製造工場の見学は、小学生のものづくり教育や中高生の体験学習など、課外授業・社会科見学の場として、また地域の子ども会や親子見学会として幅広くたくさんの方



売店「キヨロちゃんのおかしなおかし屋さん」



パッチェ © KidZania



スポーツ・音楽体験

キョロちゃんズ ダンスミュージカル

「チョコボール」でおなじみのキョロちゃんズが全国各地で開催。「キョロちゃん夢ファンタジーミュージカル」としてスタートし2014年度で12回目、累計で40万人を超えるお客様をご招待し、子どもたちに自然や友だちの大切さなどをたのしみながら伝えてきました。



フェンシングフルーレ 太田雄貴杯

オリンピックメダリストである太田社員本人による企画・プロデュースで、全国各地から小学3～6年生の男女による団体戦やスペシャルマッチ、トークショーをとおり、スポーツの大切さやフェンシングの魅力を伝えています。



社会への取り組み

教育環境整備

他社参加型 エンゼル・スマイル・プロジェクト

子どもたちをもっと笑顔にする「エンゼル・スマイル・プロジェクト」を、より大きな社会貢献活動に発展させたいと願い、他社参加型の取り組みを開始しました。これは、当社が保有する「天使」「エンゼル」の商標を商品名に使用する意思のある他企業様※1には、商標権※2の使用料を支払う代わりに、子どもたちの育成・教育環境改善に寄与する社会貢献活動に携わっていただく取り組みです。「天使」「エンゼル」の名を冠する商品は、どこの会社のものでも子どもたちを応援している安全な商品だと、お客様に安心していただける環境を目指しています。

※1 食品製造、食品販売、食品提供をする企業に限定しています。

【参加企業】 商品名
(株)サークルKサンクス シェリエルチェ[天使シリーズ]
(株)エンゼルの森 ユーグレナエンゼル

※2 商標権…知的財産権の一つで自社商品と他社商品とを区別するための文字や図形などを特許庁に出願・登録することにより、独占的に使用できる権利のことです。

ベルマーク活動に協賛し、 学校設備や教材の充実を支援

1960年に開始したベルマーク運動に継続的に協賛し、学校設備や教材の充実、ハンディを背負いながら学んでいる子どもたちを応援しています。



オリジナルベルマーク

世界カカオ財団 (WCF※3) に加盟

当社はWCFに加盟し、カカオ産出国のために、カカオ栽培農家への技術指導や教育支援活動、また過酷な児童労働のない社会の実現に向けた各種プログラムを支援し、カカオ産出国の支援をしています。

※3 WCF…世界の主要なチョコレート会社がカカオ栽培地域の環境保護と経済・社会開発を通して、カカオ経済が持続可能な発展をすることを願い、設立した組織です。



森永エンゼル財団

「森永エンゼル財団」は、当社のシンボルである「エンゼルの心」を大切に、人間らしい心豊かな生活文化のあり方と、これからの家族のあるべき姿を研究し、フォーラムなどを開催しています。また東日本大震災で被災された地域の子子どもたちに「森の絵本」をお届けする活動も行っています。



次のページへ

教育環境整備

1チョコ for 1スマイル

あなたが食べると、もう一人がうれしい



1チョコ for 1スマイル

カカオ生産国 子どもたちのための教育支援

チョコレートの原料『カカオ』がつくられる国には、経済的な自立が難しく十分な教育環境が整っていない地域もあり、当社では子どもたちが安心して教育を受けられる環境づくりを支援しています。NGOを支援活動のパートナーとして、年間を通じて行う寄付に加え、年1回の特別月間では対象商品1個につき1円を寄付します。2008年からスタートし、これまでの支援総額は約1億4,700万円になりました。(2014年2月現在)

支援の流れ

支援をした地区のカカオを直接買い付け、それを商品にしてお客様にお届けし、その購入金額から寄付を行います。寄付を通じて生まれた「成果」を商品を通じてお客様にお届けするという、業界でも初めての取り組みです。



新しい校舎と給水設備に喜ぶ子どもたちからのイラスト



村で収穫されたカカオ豆を使ったチョコレートをお村のみなさんにお届けしました。



教師の指導のもと、熱心に読書に励む子どもたち

日本NGO「ACE」との支援活動

〈ガーナ〉

- ・子ども就学サポート
- ・学用品の支給
- ・農家の農業技術支援
- ・先生用宿舎の建設
- ・支援地での「子どもの権利」の理解向上

国際NGO「プラン」との支援活動

〈ガーナ〉

- ・校舎の建設
- ・机・いすの支給
- ・学校図書室の建設と図書支給
- ・女子サッカーチームの結成と運動場の整備
- ・プロジェクト委員会を対象としたトレーニングの実施

〈カメルーン〉

- ・校舎と男女別トイレの建設
- ・教室備品の支給
- ・井戸の建設と井戸の維持管理トレーニングの実施
- ・子どもクラブの設立と活動推進
- ・学校運営に関するトレーニングの実施
- ・特待生への褒賞授与



ガーナ



カメルーン



近所の子どもたちが新しい校舎の見学に来ました。



環境マネジメント

森永製菓グループ環境方針

環境基本理念

エンゼルのように地球にやさしく!!

森永製菓は地球温暖化防止のため低炭素社会の実現と持続的成長が可能な循環型社会の形成を目指し、生物多様性の保全を通じた自然共生社会の構築に寄与すべく、企業活動のあらゆる面で環境に配慮した取り組みをおこないます。

環境方針

基本方針



1. 環境に関する法令、条例等の順守



2. 製品に関わる全過程での環境負荷低減

製品の企画・開発段階から生産・販売・廃棄に至るまでの各段階において、環境負荷を考慮し、低減に努めます。



3. CO₂等の温室効果ガス排出量削減

省エネルギーの推進及びエネルギー使用の見える化等、カーボンマネジメントを実施し、CO₂等の温室効果ガス排出量を削減して、地球温暖化防止に努めます。



4. 省資源・廃棄物の削減及びリサイクルの促進

原材料等の有効利用に努め、廃棄物総量の削減を図るとともにリサイクルを推進します。



5. 環境汚染物質の管理及び削減促進

化学物質、オゾン層破壊物質等の環境汚染物質を適正に管理し、削減に努めます。



6. 環境意識の高揚及び生物多様性の

保全・社会貢献活動の促進

社内環境マネジメント体制を整備・改善し、環境教育を通じて、全社員の環境意識の高揚を図り、生物多様性の保全・社会貢献活動に努めます。

環境マネジメント

環境への取り組みの歴史

森永製菓は1991年度に環境委員会を設置する等、積極的に環境問題への対応を行ってきました。

1997年9月には環境保全の取り組みに枠組みを与える「森永製菓株式会社環境方針」を制定し、「エンゼルのように地球にやさしく!!」を環境の基本理念として事業活動を展開してきました。

環境問題がますます重要性を増す中、地球温暖化防止のため低炭素社会の実現と持続的成長が可能な循環型社会の形成を目指し、生物多様性の保全を通じた自然共生社会の構築に寄与すべく、企業活動のあらゆる面で環境に配慮した取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

1998年7月に当社小山工場が日本の菓子業界で初めてISO14001(環境マネジメントシステム国際規格)の認証を取得しました。さらに全工場及び生産関係会社にて順次認証取得し、適正な管理により更新登録を行っています。

2000年1月には、全社的な環境保全の取り組みを一元管理する部署「環境対策室」を設置し、工場環境管理委員会等と情報交換を図るとともに、マネジメントシステムの継続的改善と、環境負荷低減や生産性向上の取り組みを推進しています。

ISO14001認証取得状況

認証取得サイト名	所在地	初回登録日	登録更新日
森永製菓株式会社 小山工場	栃木県	1998年7月7日	2013年7月7日
中京工場	愛知県	2000年3月15日	2012年3月15日
三島工場	静岡県	2000年3月16日	2012年3月16日
鶴見工場	神奈川県	2000年7月26日	2012年7月26日
森永スナック食品株式会社	千葉県	2001年2月20日	2013年2月20日
森永エンゼルデザート 株式会社 冷菓事業部	神奈川県	2001年3月20日	2013年3月20日
森永デザート株式会社	佐賀県	2001年3月20日	2013年3月20日

塚口工場は、工場閉鎖に伴い2013年5月22日をもって、認証を返上しました。

環境法規制等の順守

当社は、環境に関する法規制、条例や地域との協定について、ISO14001に基づいた管理を行い、順守に努めています。2013年度は、工場へ近隣の方等より騒音・におい等に関するお問い合わせや、苦情・事故等のお申し出が計10件ありました。これらについては、速やかに対応するとともに、改善策を講じました。

社内環境監査

環境マネジメントシステムの適合性、有効性、及び効率化を目的として内部監査を毎年実施しています。環境戦略室と認証工場の内部監査員による合同監査を2013年度は4工場部門で実施しました。この監査では法規制順守やシステムの運用状況はもとより、環境パフォーマンスの向上と、システムの効率化も重視して行っています。



内部監査(小山工場)

環境教育・啓発

当社では、社内での環境方針の掲示や、環境をめぐる社会の状況や当社の環境保全の取り組み等の教育により、従業員の環境意識高揚を図っています。また各工場では、食堂等を利用してスライド表示を行い、従業員全員への啓発活動を行っています。

また、年に一度各工場の内部環境監査員候補が一堂に会して「内部環境監査員養成セミナー」を行い、より質の高い監査員を育成するとともに、既に監査員として業務を行っている従業員にも再教育を実施しています。



内部環境監査員養成セミナー



目標を
しっかり決めて
環境を守っているよ

環境行動目標

当社は「森永製菓グループ環境方針」に基づき、以下のとおり環境行動目標を定めて、会社を挙げて取り組んでいます。

- **製品に関わる全過程での環境負荷低減**
 - ・ 環境に配慮した製品づくりを推進する。
- **CO₂等の温室効果ガス排出量削減**
 - ・ 工場部門からのCO₂排出量を2020年度末までに、2005年度比15%削減する。
- **省資源・廃棄物の削減及びリサイクルの促進**
 - ・ 工場部門からの廃棄物排出量を2020年度末までに、2005年度比25%削減する。
 - ・ 工場からの廃棄物のリサイクル率を向上させる。
- **環境汚染物質の管理及び削減促進**
 - ・ 工場、営業車からの大気汚染物質の排出量を削減する。
 - ・ フロンの大気放出を防止し、機器廃棄時のフロン回収の徹底を図る。

- ・ 排水処理設備管理の徹底を図り、水質汚濁物質の排出を抑制する。

- ・ PRTRによる化学物質管理の徹底を図る。

● 環境意識の高揚及び生物多様性の保全・

社会貢献活動の促進

- ・ オフィスでの文具・事務用品のグリーン購入を推進する。
- ・ 環境教育を通じて、全従業員の環境意識の高揚を図る。
- ・ 生物多様性の保全・社会貢献活動を推進する。

環境会計

当社では環境会計を、環境に関する方針・目的・目標の達成度合いを判断する指標として、さらには、環境パフォーマンスの向上のためのツールとして有効に活用したいと考えています。

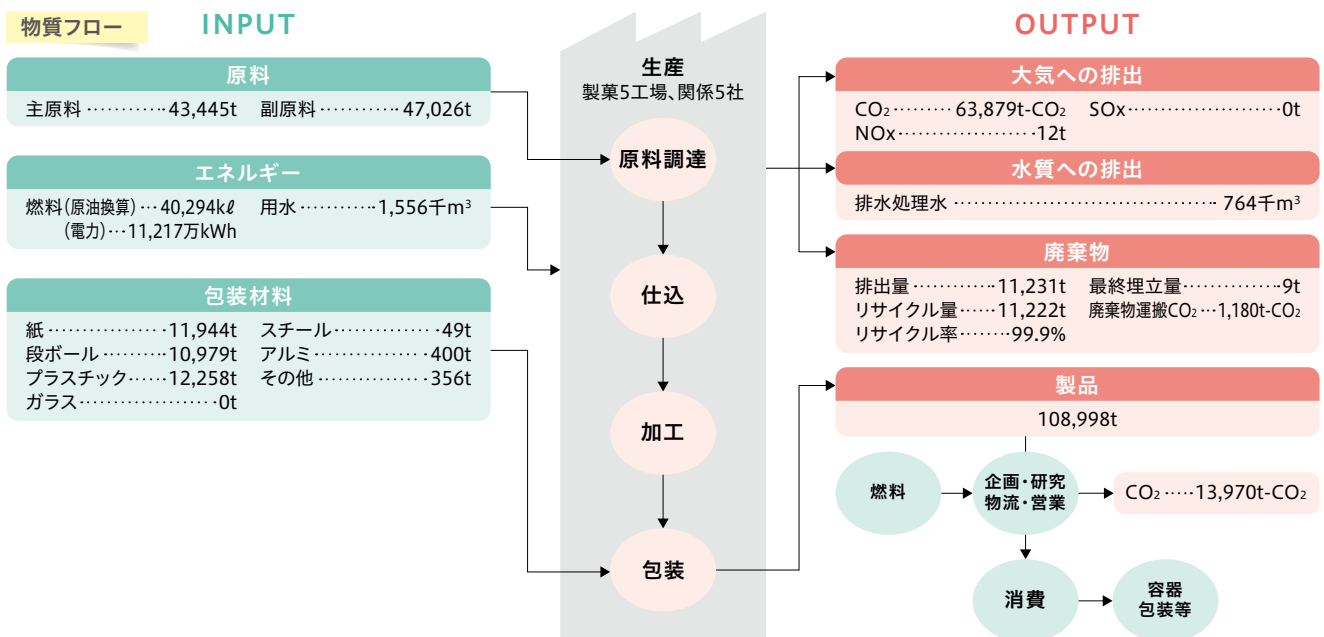


〔環境会計〕

URL http://www.morinaga.co.jp/eco/pdf/2014/15_kankyokaikai.pdf

事業活動における環境負荷(2013年度)

エネルギーや原材料の使用、廃棄物の排出等、製品の製造過程においてはさまざまな環境負荷がかかります。私たちは、一つひとつの環境負荷に配慮し、環境にやさしい製品づくりを続けています。



低炭素社会の実現

CO₂排出量削減の取り組み

目標 工場部門からのCO₂排出量を
2020年度末までに、2005年度比15%削減する。

省エネルギーの推進及びエネルギー使用の見える化等、カーボンマネジメントを実施し、主たる温室効果ガスであるCO₂の排出量を削減することで、低炭素社会の実現を目指し、地球温暖化防止に向けて取り組んでおります。

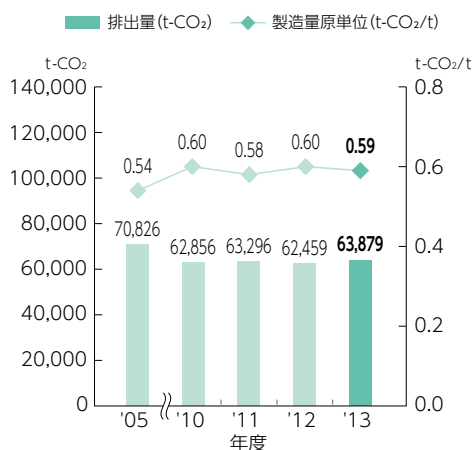
2013年度の実績

製菓5工場、関係5社^{*1}の2013年度のCO₂排出量^{*2}は63,879t-CO₂、製造量原単位^{*3}は0.59t-CO₂/tとなり、2005年度比で9.8%の排出量を削減できました。

また、2012年度比では、排出量は2.3%の増加、製造量原単位は1.6%の減少となります。

- *1 森永スナック食品(株)、森永エンゼルデザート(株)冷凍事業部、森永デザート(株)、高崎森永(株)、森永甲府フーズ(株)の5社をいいます。
- *2 製菓5工場、関係5社の各種エネルギー使用に伴うCO₂排出量を合計したものです。環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案Ver1.4)」等により算出、比較対照しています。
- *3 製造量原単位とは製造重量あたりのCO₂排出量のことをいいます。

CO₂排出量と製造量原単位の推移

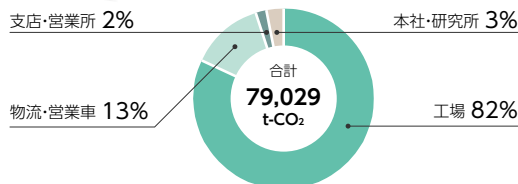


CO₂排出量比率

全体的なCO₂排出量実績を把握し、見える化を推進することで排出量削減に取り組んでいます。

製菓5工場、関係5社からの2013年度CO₂排出量は、全体の82%を占めています。

CO₂排出量比率



省エネルギーへの取り組み

クールビズ・ウォームビズの取り組み

本社・販売事業所等のオフィスにおいても省エネルギーの取り組みを推進しています。クールビズ・ウォームビズを2005年より全社的に実施し、ノーネクタイや重ね着等のビジネススタイルを取り入れています。

温室効果ガス対策

森永エンゼルデザートでは、冷凍倉庫新設にあたり冷凍方式を、自然冷媒であるアンモニア+CO₂の2元冷凍方式を導入しノンフロン化を図りました。これにより、安定した低温状態の維持と、アンモニア装置を屋外に設置したことで、安全な稼働状態が望めます。

省エネルギータイプの照明LED灯の導入

小山工場等多くの事業所では、省エネルギータイプの照明であるLED灯の導入がはじまっています。LED灯の導入により、省エネルギーを推進しています。



LED灯の導入(小山工場)

物流工程における主な取り組み

当社では物流の効率化と環境対策の観点から、以前より同業他社との連携による共同輸配送に取り組んでいます。共同輸配送による積載率の向上は、輸配送車両の削減となり、大気汚染物質の排出量削減につながります。省エネルギー法改正に伴う特定荷主としても、「輸配送時のCO₂排出量」の算出・把握を行っており、2013年度は9,388t-CO₂の排出がありました。今後も、共同輸配送の推進を図り、さらには拠点の統廃合やモーダルシフト等の検討を行い、環境に配慮した取り組みを進めていきます。

循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

- 目標** 工場部門からの廃棄物排出量を
2020年度末までに、2005年度比25%削減する。

廃棄物処理法の改正や食品リサイクル法等、廃棄物関連の法律が次々と施行され、社会全体が循環型社会の形成のため、廃棄物の削減、リサイクルの促進に向けて取り組んでいる中で、当社も役割を果たすべく、目標を掲げて取り組みを行っています。品質第一で、不良品を発生させない考え方により、廃棄物の発生の抑制に努めています。

2013年度の実績

製菓5工場、関係5社からの廃棄物排出量は11,231tで、2005年度比5.8%削減できました。2012年度比では、生産工場の再編、高崎森永第二工場の稼働開始のため、7.1ポイントの増加となり、製造量原単位は0.103t/tで3.0%の増加となっています。製造設備の効率的稼働見直し等により排出量の削減を図っておりますが、動植物性残渣、金属屑、污泥が増加となっています。今後とも、廃棄物排出量の削減に向けてさらに活動を強化していきます。

廃棄物の分別管理

発生された廃棄物を種類ごとに分別を行い、場外への排出を一括管理するリサイクルセンターに一時保管をし、適正な排出及び処理を行っています。

2013年度5工場、関係5社の廃棄物排出量

	2012年度		2013年度	
	排出量[t]	排出量[t]	構成比[%]	前年度差異[t]
污泥	2,007	2,029	18.1	22
廃油	12	9	0.1	-3
廃プラスチック類	463	456	4.0	-7
紙屑	1,901	1,848	16.5	-53
木屑・繊維屑・ゴム屑	7	6	0.0	-1
動植物性残渣	5,482	6,203	55.2	721
廃酸・廃アルカリ	0	0	0.0	0
金属屑	545	592	5.3	47
ガラス・陶磁器屑	1	5	0.0	4
その他	71	83	0.7	12
合計	10,490	11,231	100.0	741
リサイクル量	10,056	11,222	リサイクル率:99.9%	

廃棄物リサイクルの促進

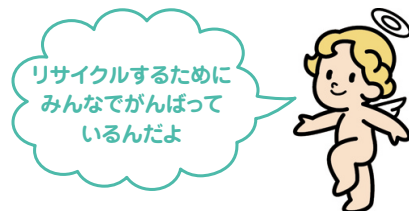
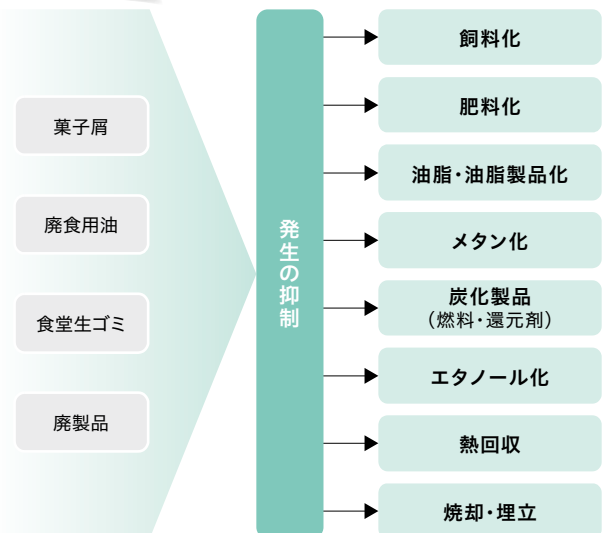
リサイクル率向上の促進

当社では全工場においてリサイクル率向上に向けて取り組んでいます。2013年度の製菓5工場、関係5社のリサイクル率は排出総量の99.9%となりました。今後も適正な分別を行い、資源の有効活用を図るとともに、有価物化を推進していきます。

食品廃棄物リサイクルの取り組み

製菓会社の2013年度の食品リサイクル率は83.1%となり、前年度比約11ポイント向上しました。生産工場では廃棄物の「発生抑制」に努めていますが、発生した食品廃棄物は主に、飼料化、肥料化、及びメタン醗酵原料などに利用することでリサイクルしています。製品廃棄物等は、その特性から、リサイクル困難な部分もありますが、今後も、製品特性に合わせた食品廃棄物再生業者の選択等を実施し、リサイクル化を推進していきます。

リサイクルフロー



循環型社会の形成

環境想いの
商品がいっぱいだよ



容器包装の削減・減量化

原料、包装、輸送から廃棄まで、あらゆる面からの環境負荷低減に配慮した製品づくりを目指しています。廃棄を抑制する取り組みの実施や、廃棄時に減容化のしやすいユニバーサルデザインの導入も行っています。私たちは常に環境のことを考えながら、製品の企画・開発を進めています。

環境にやさしいパッケージ

ミルクココアスティックタイプシリーズ

スティック袋に植物由来の原料を一部使用しました。物性は従来のものと変わらず、しかも化石資源の使用削減、CO₂排出抑制など、環境負荷の低減に努めています。



ミルクココア スティック



バイオマス
使用部位:スティック袋
使用原料:バイオマテックPET
No.110028
本製品のスティック袋には
環境に配慮したバイオマス原料を
一部使用しています。

●プラスチックの減量化

ベイク

個装プラスチックトレイの薄肉化によって、プラスチックの使用量を削減しました。



ベイク<ショコラ>

プラスチック使用量を
約5.1t/年削減

チョコモナカジャンボ

個装フィルムの長さを縮寸し、フィルム使用量を削減しました。



チョコモナカジャンボ

フィルム使用量を
約2.4t/年削減

容器包装の削減・減量化

●紙箱の減量化

ホットケーキミックス

個装箱の用紙坪量(g/m²)ダウンで、紙使用量を削減しました。



ホットケーキミックス

紙使用量を
約4.6t/年削減

保管・輸送時の環境負荷低減

製品の保管・輸送時に使用されるパレットに、なるべく多くの製品を積載できるように積載効率を考慮して製品設計を行い、保管・輸送時に関わるエネルギー使用の抑制に努めています。

環境汚染物質の管理・削減促進

大気汚染物質の抑制

生産工場の全てのボイラーを2005年度までに都市ガス燃料仕様に変更し、さらなるNOx、CO₂排出削減に取り組んでいます。また、工場敷地内のアイドリングストップ順守のために、各お取引先の方々にもご協力を要請しています。営業車の環境負荷低減も積極的に推進しており、2013年度末の低排出ガス車導入比率は97.1%です。

オゾン層破壊防止

オゾン層破壊物質であるフロン^①の管理徹底を進めています。各工場では空調機や冷凍機等の点検・保全を強化し、設備更新時は適切なフロン回収を行い、代替冷媒に切り替えています。

水質汚濁防止

排水処理設備の運用に関して、自主管理基準を設定し「運転管理手順書」の見直しや教育訓練の実施などで管理徹底を図り、設備のメンテナンス強化、更新・改善のための投資を行っています。



雨水流出防止訓練

化学物質への対応

「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法)に従い「化学物質管理手順」を作成し、全社的に化学物質管理を強化しています。工場部門ではISO14001のマネジメントシステムを活用して、安全で適正な管理の徹底と、排出量の削減に取り組んでいます。

環境への取り組み

環境保全活動

緑化推進

工場では見学者コースの整備やお客様ホールのリニューアルとともに場内の緑化を推進しています。

森永エンゼルデザート冷蔵事業部では、工場再構築に伴い緑化計画を進めています。完成後は市民の憩いの場として開放する予定です。



緑化計画(森永エンゼルデザート冷蔵事業部)

環境美化運動

三島工場では、市内河川の清掃活動に積極的に参加し、生物多様性の保全と環境美化運動を推進しています。



河川の清掃活動(三島工場)

地域交流

工場では毎年、「お花見」、「納涼祭」等を開催し、構内を開放しています。たくさんの近隣住民の方々に参加をいただき、地域との交流を図っています。



工場納涼祭(中京工場模擬店)



工場納涼祭(ワンピース)



森永製菓株式会社

〒108-8403 東京都港区芝 5-33-1

このレポートに関するお問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション部 CSRグループ

TEL 03-3456-0143 FAX 03-3769-6129